

未来寄合

未来寄合フォーラムを開催！

令和 8 年 3 月 8 日（日）の午後、生涯学習センター研修室 1・2 で、「未来寄合フォーラム」を開催しました。参加者は、市民や事務局スタッフを含めて 59 名でした。

前半は、市内 5 小学校区の中でモデル的に取り組んだ北小校区「未来寄合トライアル」の成果を 4 グループから報告。事務局（市協働安全課）からはそれを受けて「続けていける地域のあり方（案）」の提案がありました。

後半は、「ワクワク未来カフェ」と題し、8 テーブルに分かれ①前半の発表で心に残った取り組み・ヒントは？②地域に定着・広げていくためには？③自分が始めるなら誰と何をやる？のテーマに基づいて 3 ラウンドのおしゃべり。ラウンドごとにメンバーチェンジしながら、多様な人と意見交換 & 交流し合いました。

出会い・ふれあい・語り合い～みらいよりあい

未来寄合トライアルの成果報告&ワクワク未来カフェ

1 市長あいさつ

久保田市長



地域への意識が薄れてきている一方で、地域が果たす役割は大きいとも思っています。この課題解決には正解がなく、地域の皆さんと一緒に考えていくことが一番良いだろうということで、令和 4 年度からこの「未来寄合」に取り組んでいます。

本市はコンパクトなまちで、人と人との距離が近く、ふれあいが広がりやすい。また区ごとに特色も違う。その中で、どのようにしていけばいいのか、皆様と一緒に、試行錯誤しながら考えていけたらと思っています。

2 未来寄合トライアルの成果報告

チーム「スマホですまいる」

「私もできる!!スマホで地域 DIY」

プロジェクト名に「自分たちが参加し、自分たちの手でまちを作っていく！」という思いを込めています。世代を超えた共通の話題であるスマホをきっかけに、地域に関心・関わりを持ってもらうきっかけを作りたい！また、行政区の負担軽減にもつなげたい！という目的から、8 月 30 日に西市町ゆうわ会の会員を対象に、スマホ体験教室を開催しました。そして、そこでの会話から、日々のちょっとした困りごとが見えるという可能性を感じました。小さな場づくりは小さな会話を生み、それが小さな行動を生む。その積み重ねがまさに「地域 DIY」なんです！



チーム「DX 編集部」

「今日からあなたも結ねっ 町内会DX編集部」

地域情報ツール「結ネット」導入を進めるため、3つの取り組み①導入チラシを作成し区長会で紹介、②役員向けデジタル化講座を実施、③デジタルに抵抗のない若者の力を借りるため、若中寄合開催、を実施。また校内でオリジナル LINE スタンプを募集したら多くの応募があり、若者が関わると新しいアイデアや活動が自然に生まれると実感。

今回の取り組みから、町内会での周知、役員向けデジタル化講座、若者世代の参画の 3 つを組み合わせることが、町内会 DX 推進の鍵であると考えました。今後は、若い世代が地域と一緒に作る仲間として関われ



る場を広げ、町内会の持続可能な仕組みを作りたいと思います。

チーム「わくわくパフォーマンスアップ」

「外部連携」

地域リーダー講演会の岩崎先生語録に「区の仕事はお祭りをする事だ！」があります。お祭りをする事でつながりができる。

中央町は子ども会がなくなり、盆踊りもない。そんな中お祭りをするため、お助けマンとしてまちのプロボノを発掘したり、商工会等とのマッチングができなかったかと考えました。

岩倉ボランティアサークルの協力を得て、8 月は「こどもお楽しみ会」、9 月は地域のピアノの先生を招いて「歌声お茶会サロン」を開催。そして 11 月には「中央町祭り」。来年度も開催しようとしています。

また大地町は新・旧の壁を取るため、子どもを巻き込んだ「新しい祭り」をつくらうと、新たにお神輿を作ることになったそうです。



チーム「つながり隊」

「引き継ぎお助けプロジェクト」

区長や区役員の不安・負担軽減のため現状把握をし、より効率的な引き継ぎができないか、と方策を考えました。

まず、各行政区長を対象にアンケートを実施・集計。アンケート内でサポートを希望された A 区さんから区の管理資料や引き継ぎ資料を入手し、ヒアリングを実施。

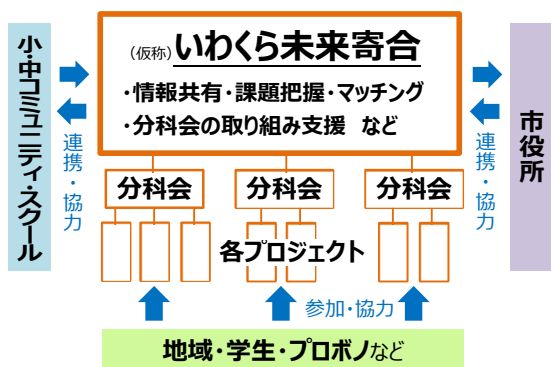
それを元に、業務管理手引き書サンプル（年間スケジュール含む）と業務運用要領書サンプルを作り、A 区で活用してもらうようお願いしました。

今後は、これらが区の中でどう活用されたのかを見ていきたい。また今回のサンプルを他でも展開できればいいなと考えています。



3 プチレク「続けていける地域のあり方（仕組みや組織）（案）」

続けていける地域のあり方（仕組みや組織）イメージ図



現行の行政区を維持しながら、その枠を超えて人と情報がつながることで、地域住民が支え合いながら身近な困りごとを自ら解決できる仕組みを育てていきたい。そのために、小学校区を単位とした新たな組織「(仮称)いわくら未来寄合」を立ち上げてはどうか。

この「いわくら未来寄合」には、地域の関係者や学校、社協、市民活動センターのほか、誰でも自由に気軽に参加できる。若い世代や子育て世帯なども参加しやすい仕組みを工夫したいと思います。

事務局は、初動期は協働安全課が担って伴走支援。将来のバトンタッチ見据え、一緒に取り組む「運営チーム」を設けることを検討します。市も組織の一員として、地域の皆さんと共に動いていきたい。

多様な主体が集まって、ほしい未来を持ち寄って、実現に向けて語り合っ、新たな一歩を踏み出す。

そんな仕組みや組織を一緒につくっていききたい。そしてこの取り組みを他の小学校区に広げていけたら・・・



協働安全課
植手さん

4 ワクワク未来カフェ 「ほしい未来を迎えに行こう。」

心に残った取り組み・ヒントは？

- ・町区を超えた寄合は良い！
- ・何かを立ち上げる時、誰がどう引っ張っていったのだろう
- ・まちのお助けマンは Good！
- ・中学生を仲間に入れる良いアイデア！
- ・わかりやすい提案、メッセージが大切！
- ・年輩者と若手が一緒につながりをつくる
- ・発信するだけでなく、興味を持ってもらえる情報発信 ほか



地域に定着・広げていくためには？

- ・学生の親がキーマンになる
- ・ちょっとしたきっかけが大事
- ・シンプルな課題が Good
- ・多様な入口や役割、仕事量を用意して参加しやすく！
- ・現役世代（30～50代）の活躍のチャンス、巻き込み
- ・地域にたくさんの「居場所」をつくる
- ・小さな集まりが大切
- ・多文化共生で地域を活性
- ・区を超えたお祭りを開く
- ・色々な取り組みの周知、発信
- ・具体的な課題に基づいた情報交換の場をつくる ほか

自分が始めるなら、誰と何をやる？

- ・五条川ウォーキング イベントを様々な年齢層でつくる！
- ・熱く語れる人になって人を惹きつける
- ・自主未来寄合を開催し、情報共有
- ・防災訓練を通じて、コミュニケーション
- ・地域の方とみんなでお話できる場所
- ・プチイベントを増やす
- ・保護者以外も学校のボランティアに登録してもらう
- ・東小エスペランサー 文化交流
- ・東小「逃走中（鬼ごっこ）」やろう！
- ・子どもたちと地域をつなぐ役
- ・農作物のおすそわけからはじまるコミュニティ ほか



ハーベスト（収穫）

「Awareness（気づき、学び、感じたこと）」と「Commitment（それを受けて私は〇〇を約束します！）」

- ◆ 発想は違っても目標が同じ人。逆に目的は違っても考えのベースが同じ人が結構いることがわかった。このような意見交換ができる場を続けてもらいたいし、参加していきたい。
- ◆ 中間世代としてもっとコミュニティを盛り上げる必要があると感じた。現状の活動を知ることができ、よい機会だった。
- ◆ 地域や学校に情報を伝えることをしたい。地域の祭りなどに児童が参加できるように工夫したい。 など

「ひとことアンケート」より

- 気楽に参加することができた。
- 皆さんの熱意を感じた。私ももっと柔軟に対応し、自分から行動を起こしてみたい。
- 小さなまち岩倉だからこそ、このような形で対話ができるんだと改めて魅力を感じました。地域によって抱えている課題や特色が異なるという事実にも色々刺激を受けました。一人一人の思い、地域を愛する想いが結集して、よいまちづくりがさらに発展していきますように。 ほか

岩倉市役所 協働安全課（須藤・植手）

TEL (0587) 38-5803

FAX (0587) 66-6380

✉ kyoudouanzen@city.iwakura.lg.jp